

健康にアイデアを

meiji

ESGミーティング

2025年2月28日

明治ホールディングス株式会社

第一部：プレゼンテーション ①

CEOメッセージ

■スピーカー

代表取締役社長CEO 川村 和夫

明治ホールディングス株式会社

明治ホールディングスCEOの川村でございます。

本日は、私から、2026中期経営計画より新たにスタートした「明治ROESG」の進化についてご説明した上で、サステナビリティと事業を融合させたトレード・オンの具体的な取り組みについてもいくつかご紹介させていただきます。

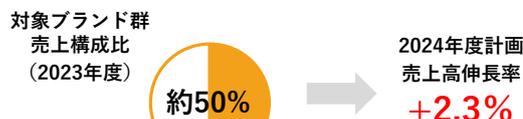
明治ROESG®の構成



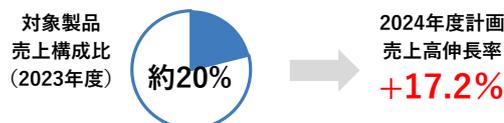
評価指標		2026年度目標
ESG外部評価	MSCI ESG Ratings	AA
	DJSI	72点以上
	ISS ESG	C+ (スコア50以上)
事業・財務価値	食品：明治ROESG対象のブランド群売上高	年度計画の達成
	医薬品：明治ROESG対象の製品売上高	年度計画の達成

明治ROESG対象ブランド群（製品）

- 食品
 - 健康志向食品・付加価値型栄養食品
明治ブルガリアヨーグルト、明治プロビオヨーグルトR-1、チョコレート効果、ザバス、明治メイバランスなど
 - 持続可能な調達に資する食品
明治おいしい牛乳、明治ミルクチョコレート、明治北海道十勝（ヨーグルト・チーズ）など



- 医薬品
 - 感染症の予防や治療に貢献する主力商品
インフルエンザワクチン、安定確保医薬品（カテゴリA製品）



まず、2026中計における「明治ROESG」に関して、ご説明いたします。

前中計よりスタートさせた明治ROESG経営をさらに「進化」させるため、「サステナビリティ戦略と事業戦略の融合」を強く意識した構成にしました。

2023中計で社員のESGに対する意識や姿勢が強化され、サステナビリティ活動への取り組みが大きく前進しました。

このような背景から、ROEという財務価値とESGという非財務価値を連動させて、新たなアプローチで持続的な事業成長を目指したいと考えております。

ESG指標については、2023中計で掲げた5つの外部評価指標の目標を全て達成したことも踏まえ、2026中計では、ESGの総合的な評価指標に入れ替え、新たな目標を設定しました。

2023中計で掲げた明治らしさ目標は、健康寿命の延伸、たんぱく質摂取量の増加やインフルエンザワクチン接種率の向上について、明治グループの取り組みがその改善にどのように寄与したか分からないなど、投資家の皆さまから様々なご意見をいただきました。今回それらの声を反映し、新たに事業・財務価値の評価指標として、食・薬ともに、明治ROESG対象のブランド・製品を設定し、年度売上高計画の達成をKPIに掲げました。

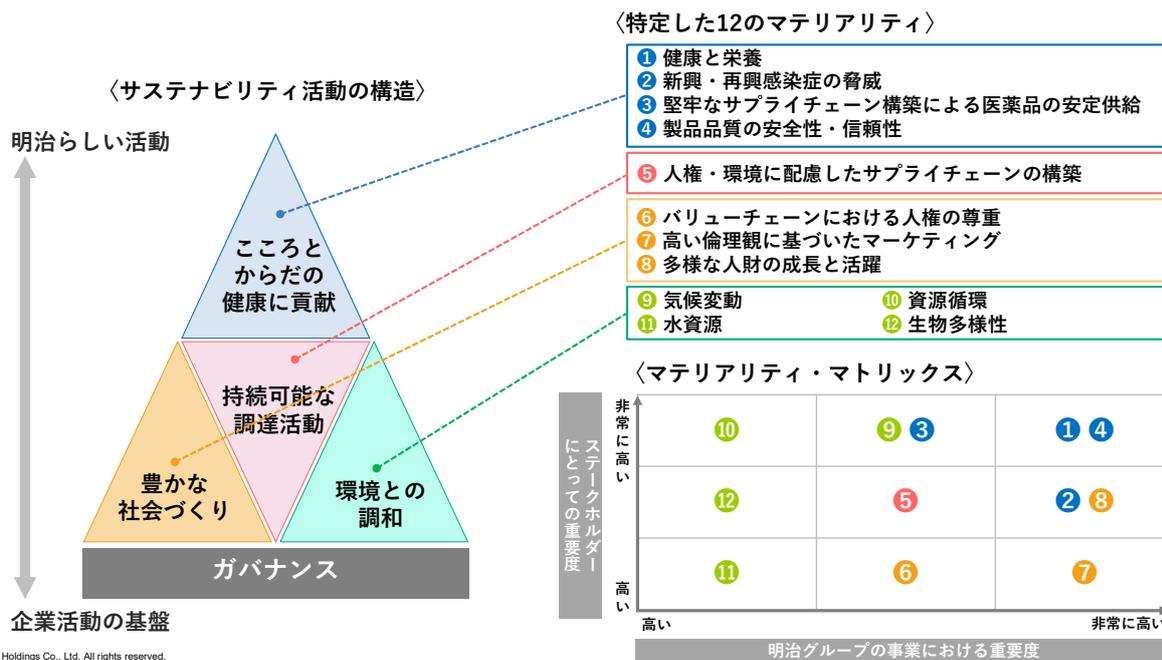
具体的な対象ブランド・製品はスライドにお示した通りで、明治グループのマテリアリティを意識したブランド・製品を選定しています。

食品では、生活習慣病や低栄養・過栄養などの社会課題に対して、健康志向食品や付加価値型栄養食品、そして持続可能な調達に資するブランド群となっています。

医薬品では、医薬品の安定供給や新興・再興感染症対策などの社会課題に対して、インフルエンザワクチンや安定確保医薬品のカテゴリAに指定された抗菌薬を対象としました。

これらはいずれも主力品であり、売上成長が明治グループの持続的な成長に直結します。

サステナビリティと事業のトレード・オン



続いて、マテリアリティについてご説明いたします。

前のスライドでご説明しました、サステナビリティと事業の融合に向け、さらにアクセルを踏み込んでいくため、2026中計では、こちらの12のマテリアリティを特定しました。

SASBやGRIなどの国際的なガイドラインに則り、環境・社会・経済の側面からサステナビリティ課題をピックアップし、それらの課題を「ステークホルダーにとっての重要度」と「明治グループの事業における重要度」の2軸から定量的に評価しました。

この評価の結果、お示ししている12の課題が両軸ともに重要と判断し、外部の専門家や、社内に設置しているESGアドバイザリーボードでの議論も踏まえ、優先すべきマテリアリティと特定しました。

「こころとからだの健康に貢献」に分類されるマテリアリティが最も事業との関係が強くなっており、①の「健康と栄養」、③の「堅牢なサプライチェーン構築による医薬品の安定供給」は、先ほど申し上げた明治ROESG対象ブランドと密接に関係しており、④についてもその前提となるものと考えています。

本日は、このマテリアリティの中から、①の「健康と栄養」、⑧の「多様な人財の成長と活躍」について、具体的な取り組みをご紹介します。

Meiji NPSの評価法（考え方）**①栄養素ポイントの加減****制限栄養素**

- エネルギー
- 糖類
- 飽和脂肪酸
- 食塩 (ナトリウム)

減点

**推奨栄養素**

- たんぱく質
- 食物繊維
- ビタミンD
- カルシウム
- 鉄

加点



日本の公衆衛生課題から
特に重視する栄養素を追加

②食素材ポイントの加算**食素材**

- 果物類 (Fruits ; F)
- 野菜類 (Vegetables ; V)
- ナッツ・種子類 (Nuts ; N)
- 豆類 (Legumes ; L)
- 乳類 (Milk ; M)

加点



日本人に不足しがちな
栄養素を効率よく補う
食素材を選定

サービングサイズで評価



点数化



レーティング

新商品開発や
既存品改良に活用

まずは、マテリアリティ「健康と栄養」に関連する、Meiji NPSの取り組みです。

NPSは、政府系NPSと企業系NPSに分類されます。

政府系NPSはEUなどを中心に、国民の行動変容を促すことを目的として運用されており、企業系NPSは商品をより健康的に改良することを主な目的として運用されています。

企業系NPSは、国内でも既に複数の企業が独自にNPSを設定し運用しており、我々明治も、Meiji NPSを策定し、運用を開始しました。

特に、Meiji NPSでは、第一弾として、成人と高齢者向けのNPSを策定しました。成人の生活習慣病や高齢者のフレイルといった健康課題への対応に注力している点が、明治独自の仕組みとなっています。

今後は、幅広い世代の健康課題に寄り添うため、小児向けNPSにも取り組んでまいります。

Meiji NPSは、基本的には国の摂取基準を使いながら、制限した方がいい栄養素が入っていれば減点、積極的にとった方がいい推奨栄養素が入っていれば加点、さらに、日本人に不足しがちな栄養素を補える素材が入っていると加点、というように計算します。

分析結果が出れば、食品や飲料の1人前の量であるサービングサイズあたりで、ミルクチョコは何点、スライスチーズは何点、というように点数化し、最終的には10段階のクラス分けをします。

2026中計のKPIとして、この評価方法を用いた評価済み商品を売上高構成比90%以上にすることを掲げています。

そして、この評価結果を活用して新商品の開発や、既存品の改良を行ってまいります。

Meiji NPSは、消費者の皆さまが商品を選ぶ手助けであったり、自社の商品改良に活用することによって、疾患予防と健康増進につなげることを最終的なゴールとしています。

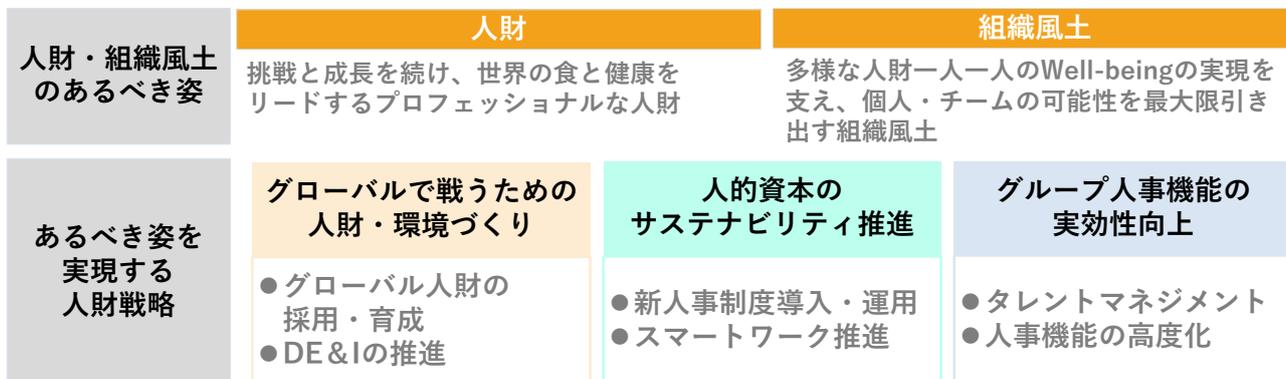
グループ理念・経営戦略の実現

グローバル

サステナビリティと事業の融合

グループ連携強化

多様な人財が自律・挑戦・成長・共創し、イノベーションを生み出す



5 © Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

次に、マテリアリティ「多様な人財の成長と活躍」に関連する、明治グループの人財戦略についてご紹介いたします。

明治グループでは、人財を価値創造の源泉とすべく、経営戦略と連動した人財戦略を構築しています。

人財は明治グループの価値創造を支える重要な資本であり、前中計から、グループ人財委員会やCHROの設置など、ガバナンス体制の整備を進めてまいりました。

2026中計では、明治グループが目指すグループ理念や、経営戦略を実行するため、多様な人財が、イノベーションを生み出す、より実効的な人財戦略を推し進めることとしました。

そのために、人財や組織風土のあるべき姿を設定し、それらを実現させる人財戦略を大きく3点設定しました。

1つ目はグローバル人財についてです。キャリア採用の強化に加え、異文化理解を目的としたトレーニングプログラムを実施、海外でのフィールドワークなどの研修やグローバル業務の実務経験を通じた、グローバル展開を推進するリーダーの育成を進めます。

2つ目は人的資本のサステナビリティ推進です。25年度より新人事制度を導入します。管理職を対象にジョブ型人事制度を導入します。加えて、年齢や経過年数によらない適所適財の登用を可能にする等級制度、各人が創出した成果や発揮した行動に応じた公平感・納得感のある評価制度、職務・成果によるメリハリのある報酬制度を実現することにより、社員の職務・職責・成果に報いるとともにグループの企業価値向上を目指してまいります。

また、スマートワークの推進により、社員がより一層やりがいを持ってイキイキと働く環境を整え、自律・挑戦・成長・共創による価値創出を目指してまいります。

3つ目はグループ人事機能の実効性向上です。事業戦略推進を支える人事部門の強化や、グループ各社の人事データの一元化にも着手し、データを活用したタレントマネジメントの実現を進めます。

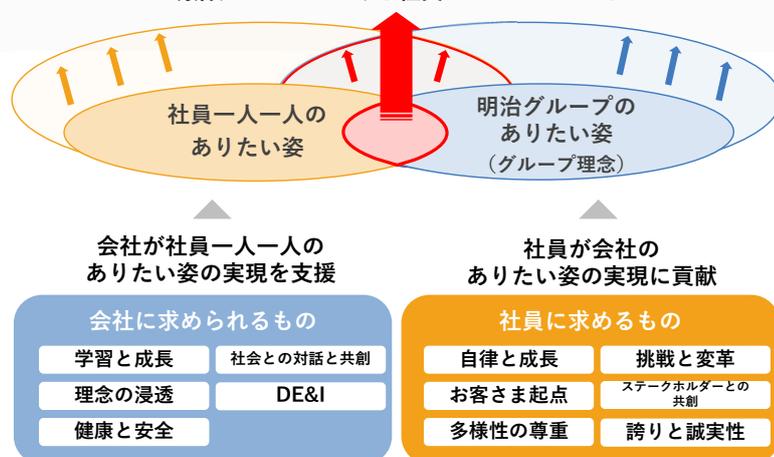
2026中計はmeijiらしい人的資本経営の実行フェーズであり、中計目標、長期的な企業価値向上を実現させるために強力に推進してまいります。

社員エンゲージメント

グループ理念の実現

イキイキとやりがいを持って働く社員の増加

明治グループにおける社員エンゲージメント



<エンゲージメントKPI>

【総合指標】
社員一人一人のありたい姿が明治グループのありたい姿と重なり、明治グループとともに成長したいと思っている

総合指標 肯定回答率 **70%以上**
(将来的に目指す社員エンゲージメント状態)

※2024年7月実績 **56.6%**

最後に、社員エンゲージメントについてご説明いたします。

社員エンゲージメントの仕組みを、今年度より変更することといたしました。

これまでのエンゲージメントサーベイは、社員が会社に対して求めている要素を会社がどれだけ満たしているか、つまり「社員満足度」を測定し、そこから課題を抽出、対策を打つという方針で進めてきました。

前中計では目標未達となりましたが、特に課題感の大きかった「工場」や「若手社員」においては改善の傾向も見られてきました。

2026中計からは、図にお示ししたとおり、人的資本経営をより強力に推進するため、

社員の満足度を測定するのではなく、会社と社員が双方で高め合い、ともに成長している状態を目指すことによって、グループ理念の実現を図ることを目的としたエンゲージメントサーベイを導入しました。

会社は社員に対して、多様な人財がそれぞれの個性を活かし、イキイキとやりがいを持って働くことができる組織風土を提供し、社員のありたい姿の実現を支援するためのサポートを実施します。

一方、社員は自律的な挑戦と共創を通じて世界に新しい価値を創出する人財に成長することで、明治グループのありたい姿の実現に貢献してもらうこととしました。

新たなエンゲージメントサーベイに関しては、初回のサーベイを2024年7月に実施し、明治グループ全体の肯定回答率は、56.6%の結果となりました。

最終的なKPIは、将来的に70%以上を目指しております。

今回のサーベイでは、グループ理念に対する共感度や変革活動の推進に向けた組織風土に対する評価、人事制度・施策などが、対応の優先度の高い主な課題として抽出されました。

課題の解決に向け、「meijiブランドプロジェクト」という活動や、研修の充実により、会社のありたい姿の理解・浸透を図ってまいります。

また、社員のボトムアップでの提案を実現する取り組みの実施など、

社員のありたい姿の実現を支援するための諸施策にも取り組んでいきます。

会社と社員のありたい姿の重なりを最大化し、グループ理念の実現を目指してまいります。

私からのご説明は以上となります。ご清聴ありがとうございました。

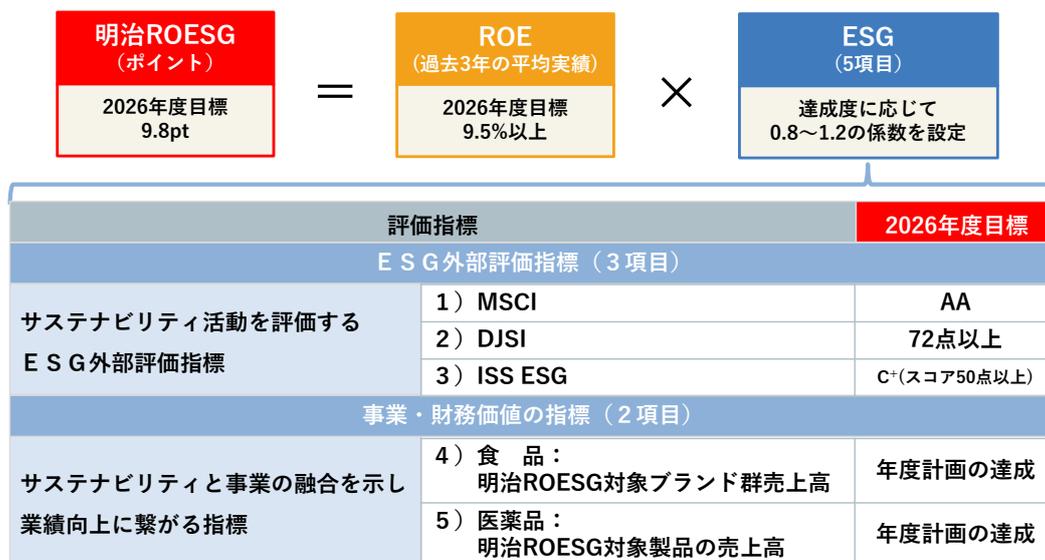
第一部：プレゼンテーション 2

ネイチャーポジティブ実現に向けたカカオの活動

■スピーカー

常務執行役員CSO 松岡 伸次

● ESG目標として明治ROESG対象ブランド群・製品の売上高目標を設定



8 © Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

まず始めに、2026中期経営計画の最上位の経営目標である「明治ROESG」のESG目標について改めてご説明します。

明治ROESG経営を更に進化させる為に、「サステナビリティと事業の融合」を強く意識した建付けに変更しております。

ESG外部評価指標については、MSCIとDJSIを前中計から継続し、新たにISS ESGを追加しました。

また、事業・財務価値を測る指標として、明治ROESG対象のブランド群又は製品を特定し、その売上高年度計画の達成状況をKPIとしています。

具体的な対象ブランド群・製品については、後ほどご説明します。

● 3指標すべてで2024年度目標を達成

評価指標	2023年度実績	2024年度目標	結果	2025年度目標	2026年度目標
1 MSCI	A	A	AA	AA	AA
2 DJSI (CSAスコア)	67点	68点以上	69点	70点以上	72点以上
3 ISS ESG	C (スコア40.42点)	C (スコア43点以上)	C (スコア46.46点)	C (スコア46点以上)	C+ (スコア50点以上) (PRIME認定)

ESG外部評価指標について、現状の進捗状況についてご説明します。

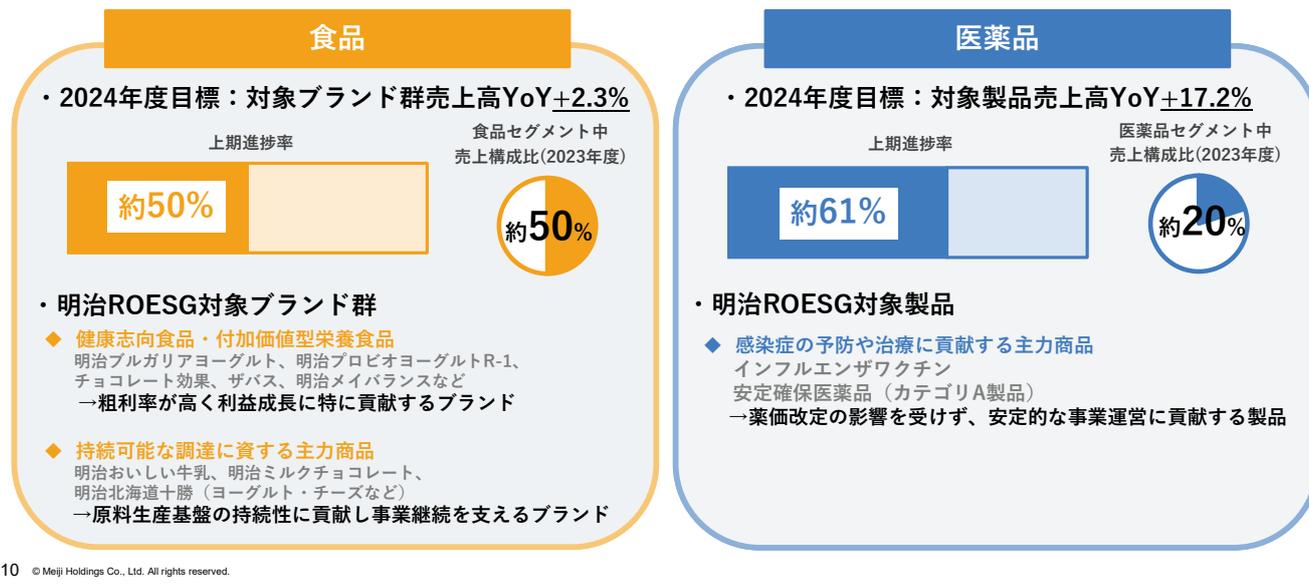
MSCIについては、容器包装に関するKPI設定やプラスチック削減目標の上方修正、コンプライアンスに関する監査実績の新規開示などにより、評価がAAと目標のAを上回りました。

また、DJSIは、廃棄物処理、食品ロス実績の開示改善、コンプライアンス違反に対する懲戒処分実績の新規開示などにより、評価が69点と目標の68点以上をクリアし、Worldインデックスに2年連続選定されました。

そして、ISS ESGは、評価がC、スコアが46.46点と目標の43点以上をクリアしました。

このように、ESG外部評価指標については、3指標とも24年度の目標を達成しました。

● 2024年度上期時点で、目標達成に向け順調に進捗



次に、事業・財務価値の指標について、現状の進捗状況をご説明します。

食品の明治ROESGの対象ブランド群は、スライドにお示しした選定基準により選定し、食品セグメントの売上の約50%を占めます。

本年度の目標は、対象ブランド群の売上高伸長率を23年度比プラス2.3%に設定しており、上期時点では、約50%の進捗です。

また、健康志向食品と付加価値型栄養食品のブランド群の粗利率が高く、利益成長への貢献が大きいとお考え下さい。

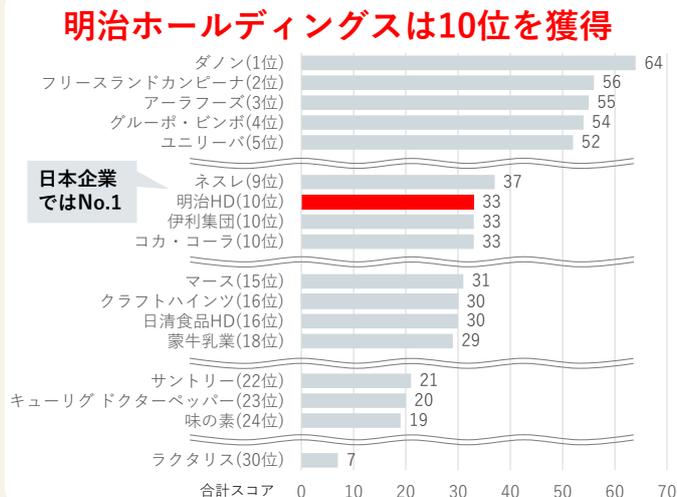
一方、医薬品の対象製品はスライドにお示しの通りで医薬品セグメントでの売上構成比が約20%です。

本年度の目標は、対象製品の売上高伸長率を23年度比プラス17.2%に設定しており、上期時点では、約61%の進捗です。

このように、上期時点では、食品・医薬品ともに目標達成に向けて順調に進捗していると思います。

ATNI Global Index 2024 (2024/11/7発表)

- 世界的な栄養課題に対する世界大手食品・飲料メーカーの役割を重視し、**本指標では30社が調査対象**
- 2030年度までに企業の食品・飲料売上高の少なくとも50%以上が健康的な製品に由来するよう市場を変革することが目標
- 定量評価指標として**HSR(Health Star Rating)**を採用、加工食品の栄養プロファイルを評価し0.5から5.0までの星でレーティング
 ※「製品ポートフォリオの50%以上がHSR3.5を満たすこと」がパリ栄養サミットの参加原則に採用



低栄養と過栄養が混在する栄養不良の二重負荷などの栄養課題がグローバルで重大な社会課題となっており、食品企業の健康と栄養に関する取り組みを評価する指標として、ATNIグローバルIndexが注目されています。

ATNIは、世界の栄養課題の解決を目指して、各企業の食品・飲料の売上高の少なくとも50%以上が、健康的な製品に由来するよう市場を変革することを目標に掲げています。

その評価指標として、Health Star Rating (略称HSR)が採用されておりこの指標は、加工食品の栄養プロファイルを10段階で評価し、星の数でパッケージに表記されます。また、国際的な基準としても採用されており、パリ栄養サミットでは「製品ポートフォリオの50%以上がHSR3.5を満たす事」を参加原則としています。

昨年11月7日発表されたATNI Global Index2024では、スライドにお示した通り、弊社は、調査対象30社中、10位となり、日本企業4社中トップの順位でした。

因みに、Global Indexの評価は3年ごとに行われ、前回の2021年の評価では、25社中、12位でした。

評価結果

	配点	明治得点	平均点	最高点
栄養戦略のガバナンス	15	6.9	6.5	14.4
HSRによる製品評価のスコア化	30	18.3	12.8	22.5
製品ポートフォリオの改善	10	1.5	3.3	9.5
国際的なNPSを活用した情報開示	5	0.1	1.3	4.8
栄養を手頃な価格で入手できる可能性	15	0	2.0	10.2
責任あるマーケティングと公正な情報提供	15	3.6	4.5	11.0
従業員と中所得国のサプライチェーン労働者への健康・栄養改善	5	0.4	1.2	4.4
栄養情報の包装容器への前面表示・裏面表示	5	2.1	1.9	4.0

評価ポイント：

- ・製品ポートフォリオの58%が健康的な製品の定義であるHSRスコア3.5を満たす
- ・健康志向商品の売上目標設定と進捗報告 など

課題：

- ・栄養戦略の立案
- ・NPSを活用した情報開示 など

弊社の評価結果についてご説明します。

スライドにお示しした8項目で評価され、赤字でお示しした

「HSRによる製品評価のスコア化」や「栄養戦略のガバナンス」など3項目において全体の平均点を上回りました。

弊社の評価ポイントは、製品ポートフォリオの58%が、HSRスコア3.5以上である為、配点の高い「HSRによる製品評価のスコア化」の項目で高得点を獲得できたこと。また、「栄養戦略のガバナンス」の評価項目の一つである健康志向商品について、売上目標の設定や進捗報告でも高い評価を得たことだと思えます。

今後の課題としては、中長期的な栄養戦略の立案やNPSを活用した情報開示などを考えています。

「食と健康」を掲げる企業として、栄養に関する取り組みがグローバルの枠組みの中で評価されたことは大変喜ばしく、今後の励みにしていきたいと思っています。

第6回 ESGファイナンス・アワード・ジャパン(2025/2/19発表)



- 環境省がサステナブル経営に取り組む企業等を評価・表彰
- 応募企業を対象に、ESGファイナンス・アワード・ジャパン選定委員会による審査を行い、各部門の受賞者を決定

選定理由：

- ・ 明治グループ長期環境ビジョンにおける明確な目標設定・精力的な活動
- ・ 酪農家やカカオ生産者に対する緊密な支援
生産地での社会課題の解決 など



環境省は、2019年度より環境大臣が表彰する

「ESGファイナンス・アワード・ジャパン」を実施しています。

その目的は、環境活動やESG金融に積極的に取り組み、社会にインパクトを与えた企業や金融機関などについて、その先進的な取り組みを表彰し、ESG金融の普及・拡大に繋げることです。

2月19日に第6回「ESGファイナンス・アワード・ジャパン」の受賞企業が発表され、弊社は環境サステナブル企業部門で環境大臣賞 銀賞を受賞しました。

その選定理由は、明治グループ長期環境ビジョンにおいて、明確な目標を設定し、精力的に取り組んでいる点や酪農家やカカオ生産者に対して緊密な支援を展開し、生産地での社会課題の解決に取り組んでいる点が高く評価されました。

今回の受賞は、大変名誉な事だと思っております。

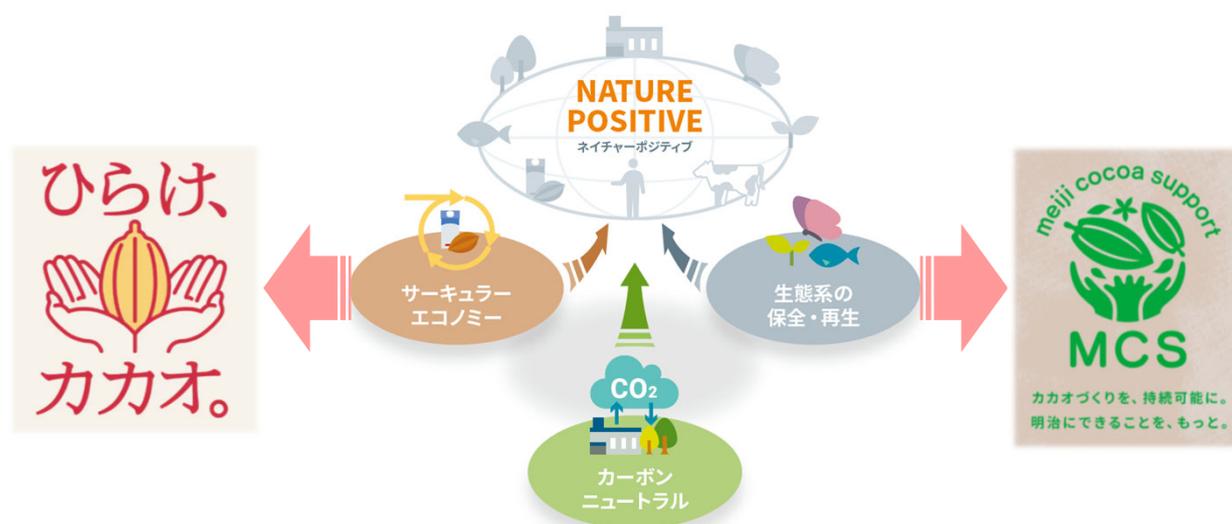
今後も長期環境目標の達成に向けて、先進的な技術を積極的に取り入れ環境活動を加速させていきます。

ネイチャーポジティブ実現に向けたカカオの活動

それでは、次に「ネイチャーポジティブ実現に向けたカカオの活動」
についてご説明します。

ネイチャーポジティブの実現に向けたカカオの取り組み

- 明治グループの事業は、自然の恵みに立脚し、自然資本の維持が不可欠
- ネイチャーポジティブの実現への貢献が重要な経営課題



15 © Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

昨今、ネイチャーポジティブという概念が、非常に注目されています。環境省が推進する「生物多様性国家戦略」では、自然と共生する社会を目指して、2030年の目標として、ネイチャーポジティブの実現を掲げています。

明治グループの事業は、生乳やカカオ、乳酸菌など、豊かな自然の恵みの上に成り立っており、将来にわたって事業を継続するには、ネイチャーポジティブの実現への貢献は、重要な経営課題であると認識しています。

スライドにお示しした通り 明治グループでは、その実現に向けて、「サーキュラーエコノミー」、「カーボンニュートラル」、「生態系の保全・再生」、これら3つの取り組みを三位一体で推進しています。

後ほど、カカオ事業におけるネイチャーポジティブの実現に向けた取り組みを2つご紹介します。

1つ目が、「生態系の保全・再生」に貢献する「メイジ・カカオ・サポート」
2つ目が、「サーキュラーエコノミー」に貢献する「ひらけ、カカオ。」の取り組みをご紹介します。

そして、「カーボンニュートラル」については、第2部のパネルディスカッションの中で触れたいと思います。

メイジ・カカオ・サポート〔MCS〕とは

- 2006年より産地支援を開始し、現在9カ国で展開中
- それぞれのカカオ産地が抱える課題に合わせた当社独自の支援

健康にアイデアを

meiji



16 © Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

それでは、始めに「生態系の保全・再生」に貢献する「メイジ・カカオ・サポート」についてご説明します。

「メイジ・カカオ・サポート」は、2006年から開始した明治独自のカカオ農家支援活動です。

社員がカカオ産地に直接訪問したり、外部パートナーと協働して、カカオ豆の品質向上に向けた技術支援やカカオ農家の生活支援などを実施しています。

現在、ガーナ、ブラジル、ペルーなど9カ国で展開しており、夫々の地域の課題に合わせた支援活動を実施しています。

この活動について、ご説明する動画がありますので、ご覧ください。

メイジ・カカオ・サポート〔MCS〕の主な活動内容

<p>豊かな森林を守る活動を Promoting forest responsible management</p>	<p>アグロ フォレストリーを 進める Promoting agro- forestry</p>	<h3>森林保護</h3> <ul style="list-style-type: none"> 森林保全活動 アグロフォレストリー 	<p>カカオづくりを、 物資で支える Supporting cocoa farmers with equipment</p>	<p>カカオづくりを、 技術で支える Supporting cocoa farmers with expertise</p>	<h3>カカオ栽培支援</h3> <ul style="list-style-type: none"> 農機具の寄付 栽培技術の指導
<p>子どもたちに、 学ぶ機会を Supporting children's learning opportunities</p>	<p>教育のための、 よりよい環境を Supporting school facilities</p>	<h3>教育支援</h3> <ul style="list-style-type: none"> 子供の学びを支援 学校の教育体制を支援 	<p>カカオ農家の 生活向上に つながる支援を Supporting cocoa farmers' quality of life</p>	<p>健康的な 暮らしのための 医療支援を Providing medical supplies</p>	<h3>生活支援</h3> <ul style="list-style-type: none"> 生活インフラの支援 医療支援

17 © Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

「メイジ・カカオ・サポート」の主な活動内容をスライドでお示ししています。

森林保護、カカオ栽培支援、教育支援、生活支援の4つの支援活動について、具体的な8つのアクションをイラスト化しました。

本日は、森林保護の具体的な取り組みについて詳しくご説明します。

森林減少ゼロに向けた森林保護の取り組み

目標

すべての調達先において、GPSマッピングなどによる農園の実態把握を行い、森林の保護・回復につとめ、森林減少ゼロを目指します。

●2026年度までにガーナ→2030年度までにその他の調達先

1.森林減少の確認

- 農園地の範囲を特定し森林保護区に関与していないか確認



GHANA
ガーナ共和国

GPSマッピングによる実態把握率

ガーナ共和国のマッピング農家数

5,365軒 (54.9%)

森林保護区に存在する農園数54軒

(対象期間：2022年10月～2023年9月)



2.森林教育

森林破壊と自然環境システムの回復に関する情報提供

クライメートスマート・カカオ
・トレーニング実施農家数

4,495軒



持続可能な農業を実現する取り組み

GAP(Good Agricultural Practice)
トレーニング実施農家数

3,704軒



(対象期間：2022年10月～2023年9月)

森林保護活動については、スライドにお示した通り、目標を設定して4つの取り組みを実施することで、2026年度までにガーナにおいて、2030年度までにその他の調達先で森林減少ゼロを目指しています。

1つ目は、森林減少の確認の取り組みで、現地パートナーと協働して農園を訪問し、GPSマッピングによるモニタリングによって、農園が森林保護区などに関与していないかを確認し、関与している場合はサプライチェーンから除外しています。

ガーナにおいて、22年10月から23年9月までの1年間で約5400軒の農園を確認し、54軒の関与が判明しました。

54軒については、現在、是正過程にあり、サプライチェーンからは除外しています。

2つ目の森林教育では、森林の保護と回復について農家の方々への情報提供や勉強会を実施しています。

「クライメートスマート・カカオ・トレーニング」を約4,500軒の農家で実施し、「GAPトレーニング」を約3,700軒で実施しました。

3. 森林保全活動

- カカオ農園と周辺地域の森林環境と生態系の維持・回復に向けて、さまざまな種類の苗を配布



	多目的樹木	カカオ苗	野菜苗	シェードツリー
累計配布数	144,680本	243,563本	100,000本	25,500本
	20,000本	11,879本	←対象期間： 2022年10月～2023年9月	

4. アグロフォレストリー

- 森の生態系を維持しながら自然へのダメージを最小限に抑える



アグロフォレストリーで
収穫したカカオ豆を
使用したチョコレート

AGRICULTURE + FORESTRY = AGROFORESTRY



3つ目の森林保全活動では、森林環境と生態系の維持・回復に向けて、スライドにお示した通り、様々な種類の苗を配布しています。

配布した苗は、生産性の高い品種のカカオの苗などで、累計で50万本を超える苗を配布しました。

4つ目は、アグロフォレストリーの取り組みです。

これは、森林伐採後の荒れた土地に、単一ではなく複数の農林産物を共生させながら栽培する農法で、「森をつくる農業」とも呼ばれます。

例えば、カカオとともにバナナやコショウなどを栽培すれば、年2回のカカオの収穫に加え、複数の作物を収穫できる為、農家の収入の安定化に繋がります。

また、この農法で作られたブラジルのトメアスー産カカオ豆を使用した「アグロフォレストリー ミルクチョコレート」を販売しています。

● 4分類8アクションをイラスト化し、活動の理解促進を図る

森林保護	カカオ栽培支援	教育支援	生活支援
<ul style="list-style-type: none">森林保全活動アグロフォレストリー	<ul style="list-style-type: none">農機具の寄付栽培技術の指導	<ul style="list-style-type: none">子供の学びを支援学校の教育体制を支援	<ul style="list-style-type: none">生活インフラの支援医療支援

The illustrations show four different packaging designs for Meiji products. 1. A brown paper bag for 'MCS' with a tree icon and the text '豊かな森林を守る活動を Promoting forest resource management'. 2. A box of 'meiji milk chocolate' with a tree icon and the text '豊かな森林を守る活動を Promoting forest resource management'. 3. A brown paper bag for 'MCS' with a tree icon and the text 'アグロフォレストリーを進める Promoting cocoa agroforestry'. 4. A yellow box for 'meiji きのこの山とたけのこの里' with a tree icon and the text 'アグロフォレストリーを進める Promoting cocoa agroforestry'. Each illustration includes a QR code and a small MCS logo.

20 © Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

「メイジ・カカオ・サポート」の活動について、お客様への訴求を強化する為に、スライドにお示した通り、「明治ミルクチョコレート」や「きのこの山・たけのこの里」などの大袋商品のパッケージに活動内容のイラストを表記します。

店頭では、3月より新パッケージに順次切り替えられる予定です。

こうした取り組みによって、「メイジ・カカオ・サポート」について、お客様に理解・共感して頂き、お客様価値に変換されることで、「サステナビリティと事業の融合」に繋げていきたいと考えています。

メイジ・カカオ・サポート〔MCS〕の訴求強化

健康にアイデアを
meiji

1月8日 読売新聞 全国朝刊 15段

商品パッケージ



21 © Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

本年1月8日、読売新聞で15段広告を出稿しました。

スライドにお示した通り「メイジ・カカオ・サポート」の伝道師としてカールおじさんを起用しました。

今後は、カールおじさんを通じて「メイジ・カカオ・サポート」についてストーリー性を持って分かりやすく、お客様に伝えることでこの活動についての理解を促進していきたいと思えます。

また、「明治ミルクチョコレート50g」に使用しているカカオ豆はこの活動を通じて、農家支援を実施した地域で生産された「明治サステナブルカカオ豆」を使用しており、パッケージ裏面に表記しています。

「メイジ・カカオ・サポート」を通じて、カカオ産地での社会課題解決によって創出した社会価値をお客様価値に変換することで、購買を促進し、経済価値化に繋げていきたいと考えています。「メイジ・カカオ・サポート」についての説明は以上です。

次に、「サーキュラーエコノミー」に貢献する取り組みとして、「ひらけ、カカオ。」についてご紹介します。

ひらけ、カカオ。とは

- カカオの可能性を最大化するサステナブルアクションのこと
- 2022年より、カカオに関わるすべての人の幸せを目指し活動を開始

ひらけ
カカオ。



目指す姿

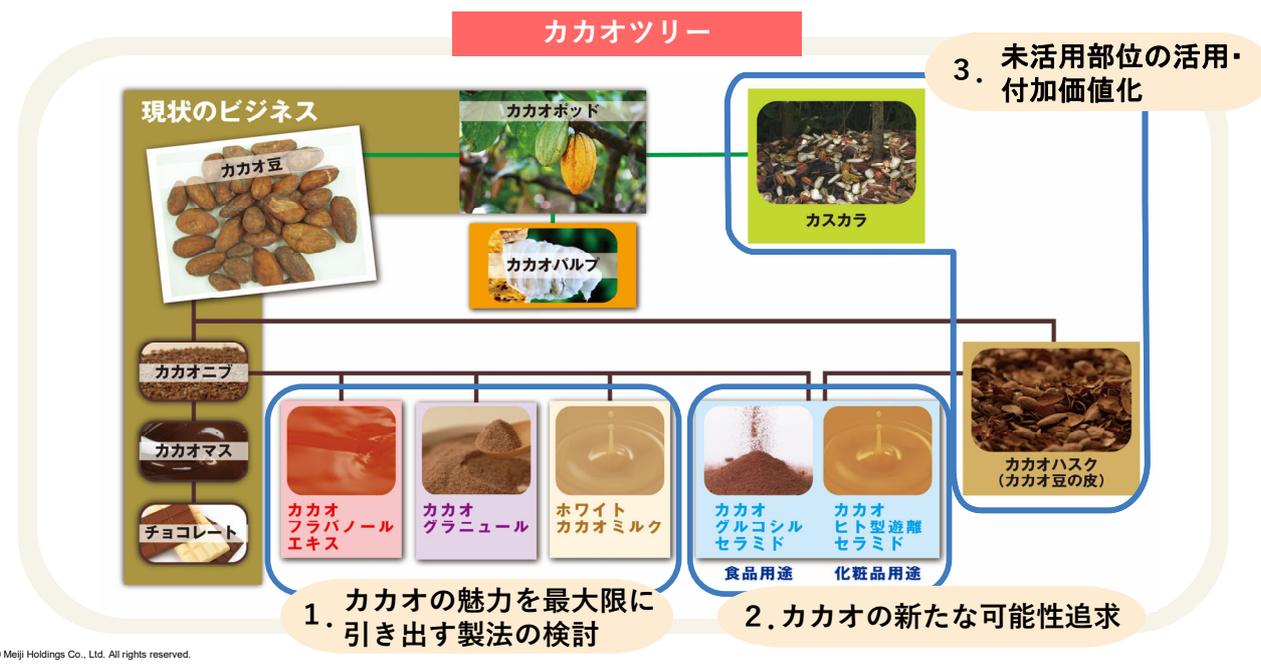
- (1)
農家の負担を増やさず
経済価値を増やす
- (2)
生活者の
「健康的な食生活」を実現
- (3)
アップサイクルにより
さらなる経済価値を
生み出す

22 © Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

「ひらけ、カカオ。」とは、カカオの持つ可能性を最大化するサステナブルなアクションを意味し、2022年よりカカオに関わるすべての人の幸せを目指して活動を開始しました。

「ひらけ、カカオ。」の取り組みが、目指す姿は1つ目が、農家の負担を増やさず、経済価値を増やすこと。2つ目が、生活者の「健康的な食生活」を実現すること。そして、3つ目が、アップサイクルにより、さらなる経済価値を生み出すことです。

この取り組みは、資源の有効活用、廃棄物の最小化などサーキュラー・エコノミーのコンセプトに合致する活動であると考えています。



23 © Meiji Holdings Co., Ltd. All rights reserved.

スライドにお示ししている図は、カカオポッドと呼ばれるカカオの実を素材に分解した図です。

チョコレートの原料として、カカオの種であるカカオ豆だけが使われており、発酵のエネルギー源となるカカオパルプを含めても、カカオの実の約3割しか価値化されていません。

そこで、カカオの持つ可能性を最大化する為の取り組みについて、3つご紹介します。

1つ目が、カカオの魅力を最大限に引き出す製法の検討です。

枠で囲っている3つは、弊社が研究開発したカカオ新素材です。

本日は「カカオフラバノールエキス」「カカオグラニューール」についてご説明します。

2つ目が、カカオの新たな可能性追求です。

化粧品成分として人気が高いセラミドを世界で初めてカカオから素材化しました。食品用途だけでなく、化粧品用途にも挑戦します。

そして、3つ目が、未活用部位の活用と付加価値化です。

「カカオハスク」は、カカオ豆の種皮で、重量がカカオ豆全体の約10%を占めています。これまで飼料や肥料などに利用されていますが、アップサイクルにより、更なる経済価値化を図ります。

また、カカオ豆を取り出した後のカカオポッドである「カスカラ」の付加価値化にも挑戦します。

1. カカオの魅力を最大限に引き出す製法の検討

- カカオ新素材を開発、今後は加工技術を確立させ量産化を目指す

カカオ新素材開発の一例



カカオ
フラバノール
エキス

カカオ=フルーツ

カカオポリフェノールの一種である「カカオフラバノール」を豊富に含み、フルーツとしての魅力を最大限にひきだす製法を検討

製品化



※現在は販売期間終了



カカオ
グラニューール

カカオ=スーパーフード

カカオ100%の粉末状の素材。カカオポリフェノールを豊富に含みながら、ポリフェノールの渋みを抑える独自製法により開発

製品化



先ほどご説明して1つ目の「カカオの魅力を最大限に引き出す製法の検討」では、カカオの新素材開発の事例として、カカオフラバノールエキスとカカオグラニューールについてご説明します。

いずれも当社独自の取り組みによって素材化に成功しました。

カカオフラバノールエキスに含まれるカカオフラバノールは、カカオ豆に含まれるポリフェノールの一群で自然な甘さと酸味がある為フルーツとしてのカカオを実感できる新素材です。

スライドにお示しした通り、フルーツとしてのカカオを味わえる、ゼリーや飲料を商品化しています。

一方、カカオグラニューールは、カカオ100%の粉末状の素材で、カカオポリフェノールを豊富に含みながらも、独自の製法によりその苦みや渋みを抑えており、カカオをスーパーフードとして捉えた新素材です。

スライドにお示しした通り、この素材を配合したクラッカーなどを商品化しています。

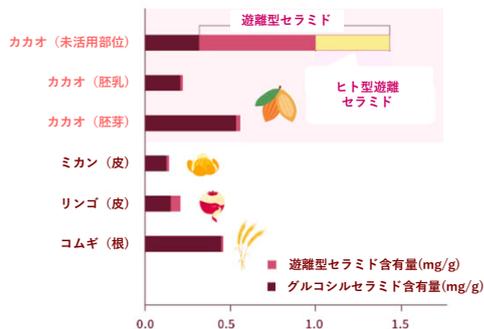
いずれもカカオの新たな魅力を引き出す商品だと考えています。

2. カカオの新たな可能性追求

● 化粧品などで人気が高い成分「セラミド」を世界で初めてカカオから素材化

植物別セラミド含有量(mg/g)

- 化粧品用途に活用できる「ヒト型遊離セラミド」がカカオ未活用部位に多く含まれることを発見



2004年北海道農業研究センター成果情報を一部改変
カカオ素材はLC-MS/MSにて測定

カカオ美容新素材”カカオセラミド”[※]

*カカオから抽出したセラミド

- (株) アルビオンとの取り組み



食品用途で活用できるカカオセラミドである「グルコシルセラミド」と「カカオフラバノール」入りのチョコレート

食品だけでなく「カカオセラミド」を化粧品にも活用すべく、タッグを組んで今後商品開発を進行

2つ目の「カカオの新たな可能性追求」では、カカオから初めて素材化した「カカオセラミド」についてご説明します。

「セラミド」は、健康食品や化粧品の素材として、近年注目されています。化粧品として多用されているのは、合成セラミドであり、天然由来且つ植物のヒト型遊離セラミドは希少な成分です。

左のグラフが示す通り、植物セラミドであるカカオセラミドは、今まで有効活用されてこなかった部位に多く含まれています。

また、植物に含まれるセラミドには、いくつかの種類があります。

グラフの濃い紫色部分が「グルコシルセラミド」と呼ばれ、食品用途に使用できるセラミドです。

また、グラフの黄色部分が人がもつセラミドと同じ構造の

「ヒト型遊離セラミド」で、化粧品では合成の「ヒト型遊離セラミド」が使用されています。

帝京大学・古賀教授の研究によって、世界で初めてカカオに

「ヒト型遊離セラミド」が多く含まれていることを発見し、

さらに、カカオから抽出した「カカオセラミド」の素材化に成功しました。

現在、アルビオン様と連携して「グルコシルセラミド」を配合したチョコレートをコラボ商品として発売しました。今後は、化粧品にも活用すべく、共同で商品開発を進行中です。

3. 未活用部位の活用・付加価値化

- 加工段階で取り除かれて有効利用がされていないカカオハスクをアップサイクル
- カカオハスクの加工技術を応用し、海外未活用部位「カスカラ」の活用を目指す

アップサイクル事例



- (株) エドウィン



カカオハスクを粉末化、
和紙とブレンドした
糸を使用したデニム

- fabura (株)



カカオハスクを粉末化、
熱と圧力を加え成型した
100%食品由来のコースター

- (株) ヘミセルローズとの取り組み



100%植物由来の
カカオ樹脂プラスチック



マカダミアチョコレート
トレー

バイオプラ製造技術を応用し、
カカオハスク繊維開発・製造も
行っている



3つ目の「未活用部位の活用・付加価値化」では、カカオハスクのアップサイクルについてご説明します。

カカオがデザインする新しいライフスタイルを提案するブランド「CACAO STYLE」を立ち上げ、多くのパートナー企業と協業しています。例えば、エドウィン様とは、カカオハスクを粉末にし、和紙とブレンドした糸を使用したデニム生地で製品化したり、fabula様とは、カカオハスクを粉末化、熱と圧力を加え成型した、100%食品由来のコースターを製品化しています。他にもカカオハスクで染めたタオルやTシャツなど多くの商品を専用サイトやパートナー様の店舗・サイトで販売しています。

また、バイオプラスチックの製造メーカーであるヘミセルローズ様との取り組みでは、カカオハスクを活用した100%植物由来のカカオ樹脂プラスチックの製造に成功しました。これをマカダミアチョコレートなどのトレーでの活用を計画しています。そして、バイオプラ技術を応用して、カカオハスク繊維の開発にも取り組んでいます。

加えて、カカオ産地への技術導入を行う事で未活用部位の「カスカラ」を活用した、農家支援を目指しています。

「ひらけ、カカオ。」の取り組みをカカオ産地の社会課題解決へ

- カカオの価値を向上させ、カカオ農家の生活向上やカカオ産地の労働問題・教育問題など、さまざまな社会課題の解決を目指す

「ホールカカオ活用」への進化



カカオ豆だけではなく**フルーツとしてのカカオ**が持つ、**すべての可能性**を生かした明治ならではの新たな栄養価値の創造に挑戦

「バリューチェーン」の進化



サステナブルな取り組みを**異業種の企業と連携し、共創**。原材料として使用されないカカオの部位の活用に取り組む

「情報発信」の進化



デジタルテクノロジー、IoTを活用し、カカオ生産地やお客さまと距離を縮め、**カカオがより身近な存在**となる

「ひらけ、カカオ。」の取り組みは、カカオの価値向上による、カカオ農家の生活向上やカカオ産地の人権問題など様々な社会課題の解決にも繋がると考えています。

また、「メイジ・カカオ・サポート」と連動し、サステナビリティと事業の融合に繋げていきたいと思えます。

スライドにお示しした3つの進化は、「ひらけ、カカオ。」の取り組み内容を纏めたもので、「ホールカカオの活用」、異業種の企業と連携する「バリューチェーン」の進化、そして、積極的な情報発信を継続する事で、カカオの可能性を更に広げ、カカオの価値最大化を目指していきます。

健康にアイデアを meiji

- 本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いいたします。
- 本資料に記載された業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
- 本資料には、薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。